

# 伊 闕 佛 龕 碑

641年  
(唐・貞観15年)

## 碑法帖拾遺 ⑧

木

木雞室

伊藤 滋



碑面部分



「伊闕佛龕碑・原碑」

「雁塔聖教序碑」



「伊闕佛龕碑」



『三龕記』(さんがんき)とも称す。初唐の三大家の一人である褚遂良の40代の書である。この碑は龍門石窟の大仏があるその脇の壁面に刻されている。切り出して建てられた碑ではなく、石窟の壁面に刻された摩崖碑である。褚遂良の作と伝えられるものには、以前このコーナーでも紹介した『房玄齡碑』や『雁塔聖教序』『孟法師碑』がよく知られている。「伊闕佛龕碑」はこの中では最も若い頃の作であり、「孟法師碑」(642年 唐・貞観16年)がほぼ

「孟法師碑」



「伊闕佛龕碑」



同年代である。先人は、やや平板で隸書の趣を加味した楷書であると評している。確かに所々に隸書の筆勢を帯びた点画を見ることが出来る。これは北魏末頃より楷書体に隸書体を加味した書風が次第に多く見られるようになる。「伊闕佛龕碑」はこうした書風の延長上にある楷書であろう。しかし平板と評されているが、仔細に見ると「雁塔聖教序」や「房玄齡碑」のような見事な抑揚を具えた筆画が見られる。



图版原寸大

# 書道芸術院 平成の書 (2008)



小野寺 逢 仙

書道芸術院展  
参与会員

「作家は作品を発表することによって作家たり得る」

これは私の信条であり信念であり、口ぐせでもある。私はずっと何年間か続けて作品を発表する機会を作り世の御批正を仰いできた。

ふり返れば戦後の昭和22年頃だったと思うが香川峰雲先生達のお誘いによって書道芸術院の発足に御協力させていただいて以来茲に滿六十年余が過ぎた。東京四谷の事務所にはしばしば伺ったことを思い出す。

さて、書道と言えば漢字、漢詩を書くことが何となくあたり前に思われていた時代から斬新なもの——書の刷新、革新をと見える声は猛然と高まってきたことは誠に嬉しいことであった。

漢字や漢詩のみでなく現代の感覚にマッチできる文や詩歌や俳句を書くことは書の刷新の為にも大いに奨励されるべきと信じている。

ただ、現代の書の刷新や進展をさまたげているもの一つに「著作権」の問題があると思っている。

詩歌や俳句であれ文章であれ、一たん世に発表したからには、読者がどのように利用しようとかまわれないと思っている。ところが著作権の現状はどうだろうか。

ここに掲げた私の拙作は、私の歌であり、毎日書道展に出品した作品と同類のものである。

茲に院の益々の前進と発展を心から念じて拙稿をおく。

# 書のひろば

理事長 恩地春洋

## 第60回記念全国学生書道

### 台湾見学の旅

第60回を記念して計画された台湾見学の旅は、7月30日、表彰式のあと結団式の後、成田に一泊して8月1日、3日、空路台湾へ渡り、台湾の学生と書の交流を深めて帰国の予定

8月1日(金)

9・20 成田発(全日空)

11・50 台北着 専用バスで市内へ

◇市内観光

龍山寺、台湾民主祈念館

など

◇夕食 市内レストラン

士林夜市見学

ホテルへ

8月2日(土)

朝 起床、朝食

専用バス 忠烈祠 見学

10・30～13・00

台湾学生と友好揮毫大会

交流昼食会

午後 ◇台北市内観光

故宫博物院 台北101ビル

お土産店など

夕刻 夕食 市内レストラン  
8月3日(日)

朝 起床、朝食

午前 専用バスで免税店で買物後

空港へ

13・00 台北発(全日空)

17・10 成田着

通関後 解散 各地へ

○揮毫会

大きさ 半折1/2 (35×70)

字句は自由、友好的なもの

字数 二文字、高校、大学生は字

数多くてもよい

・筆は書きなれたもの持参

○団編成

団長 恩地春洋 副団長 小伏小扇

相談役 小伏竹村 倉林紅瑤

秘書長 千葉蒼玄 医師 中村 宏

(旅行社) 堂本暁生

団員(順不同) 綿貫智子 一森亜

耶奈 小野 梓 竹村知夏 本間香

(下段に続く)

## 09「現代の書新春展」

7月26日選考された、毎日書道会主催の09「現代の書新春展」の出品者100人が決定した。(09年は60才以下)

種谷萬城 半田藤扇 下谷洋子

尾形澄神 小竹石雲 太田蓮紅

千葉蒼玄 (以上本院関係)

澄 田中順子 芳野直子 有賀美来  
五藤真世 宇田川春香 岡田匡美  
目良聡衣 田代咲 都丸希美 金井  
良樹 藤崎量子 嶋田千寛 堀尾有  
貴 石川晋太郎 村上理子 佐久間  
歩 有路千悠  
同行者 11名

## 第23回「中国へ書の研修団」決まる

7月18日、毎日書道展受賞者の中から、例年通り、訪中研修団が選考された。本年は記念展のため、若干派遣人数が増えたようである。

団長 中村雲龍 副団長 稲村龍谷

秘書長 和田堅吾

団員(会員賞より8名)

駒崎流芳 石川昇玉○大平邑

峰 鈴木大有 森 桂山 池

谷天外○前田龍雲 野瀬雋水

(毎日賞より10名)

伊藤聖香 佐藤義之 清野春

荘 関 奨人 本間遠翔 山

本まり子 伊山宗紫 日秦魁

舟 安藤尤京 宮村 弦

(U23毎日賞より1名)

梁 美葵 (○印本院関係)

(日程)

8・26 17・00 成田発



「台湾見学の旅」でお世話になる団体(中国書法学会)理事長 恩地春洋  
顧問 廖楨祥先生  
謝季芸先生

23・25 西安着  
8・27 終日 西安市内見学  
8・28 午前 西安市内見学  
午後 洛陽へ  
8・29 終日 洛陽見学  
23・26 洛陽発(列車)寝台  
8・30 南京着  
8・31 南京市内見学  
午後 揚州市内見学  
9・1 午前 揚州市内見学(バス)  
午後 揚州発(バス)  
9・2 午後 上海市内見学  
9・10 上海浦東空港発  
(中国東方航空)  
12・50 成田着  
通関後 解散



## 前衛書 (五)

三森 慧 香

「書のホームレス」とは、前回に感じた心持ちです。今までの時間的経過のなかで考えるのに、これは、自己を律しきれないせいでと結論づけました。つまり胸を張れない弱みを持つ者のみがある。「漂泊感」につきます。まあそれが分かっただけでも良しとすべしで、三冊の辞書の内、書店の物に、書家＝書工とあったのを思い出す。



① 2007年

全国学生書道展指導作品展出品



② 「作品2008-5」

①・②三森慧香書

私は書工から職人を連想し、

職人芸に移り、あげく「頑固一徹」に至った。すごいラインで

ある気がして、漂泊なんて一発で川向こうにまで飛ばされてしま

いそうだ。そこで結論、私は肩肘張る風を見せずに「洒落に

書く」この姿勢で道を極める、なんてね。洒落って、しゃ

らくと読んで、心・ふるまいなどがさっぱりしていて、

深く執着しないさまと書いてあった。隣に洒落臭いと

あって、これはきいた風をして、なまいきだ。分に似

ずしゃれたまねをするところ。くわばらくわばらだ。

2007年夏の学生書道展の作品ですが、余白が少

ない。落款は、余白を大切に

に残し線の流れを止めない位置に押すこ

とが肝心。マットの色選び

も表具屋さん任せでなくする。

小品で、少し冒險するのも楽しいものだ。

## 21世紀の書

—私の主張—

## 漢字 (五)

有野 琤 扇



「森羅万象」

有野琤扇書

120×360cm

個展  
「from the UNIVERSE」  
(5)

— 作品制作 ③ —  
地球上には、生命の誕生以来、進化と絶滅を繰り返してきた生き物が三千万種にも及ぶという。その中で最も進化を遂げた人類は、一体どこへ向かっているのだろうか。

「森羅万象」は、宇宙間に存在する一切のものを指すことば。甲骨辞典でこの四文字を調べていると、象形文字の奥から古代人のメッセージが伝わってくる。深い森の中、様々な生き物たちが相交じり共生している姿が浮かんでくる。原稿ができ、大きな紙に書き始めてみた。「森」がなかなか思うように書けない。師、小伏竹村先生が個展で発表された「林」の印象が強く、それを払拭できない。筆を替え、墨を替え悪戦苦闘、ようやく出来上がった作品です。東京のある女流写真家が、その「森」が最も印象的だと話してくれた。又、前衛の先生からは、「さそりの尻尾をもう少し短くすれば、明るくなったかな」、と優しくアドバイス頂いた。多勢の弟子と来られた先生からは、この作品の解説を求められたり、通りすがりの外国人からは値段を尋ねられたり、想い出深い作品となった。

用紙 半紙普通判

注

漢字研究部競書作品は、左の法帖の中から何文字臨書してもよい。

(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる

署名、もしくは

〇〇臨

(押印のみも可)

〈解説〉「文皇哀冊」は、点画の間の空間が比較的等しく分割されているため、造形的には引き締まった感じに見えます。運筆の速度が速く、筆圧も一定に見えます。直筆で手首はなるべく使わない方がよいといわれています。

哀冊は、楷書に近い行書なので、点画の連続や筆画の省略は少ないようですが、細かく文字を見るとやはり適処に現れています。(編集部)



絢。松莢望幸。瑤華方薦。仙丹斂術。星飛告變。疑冰氣於升年。掩／璿暉於離殿。嗚呼哀哉。商管初飛。／秋絃罷偃。驚川悠緬。宮車晏出。大隧弗營。元龜獻吉。展輪効駕。義

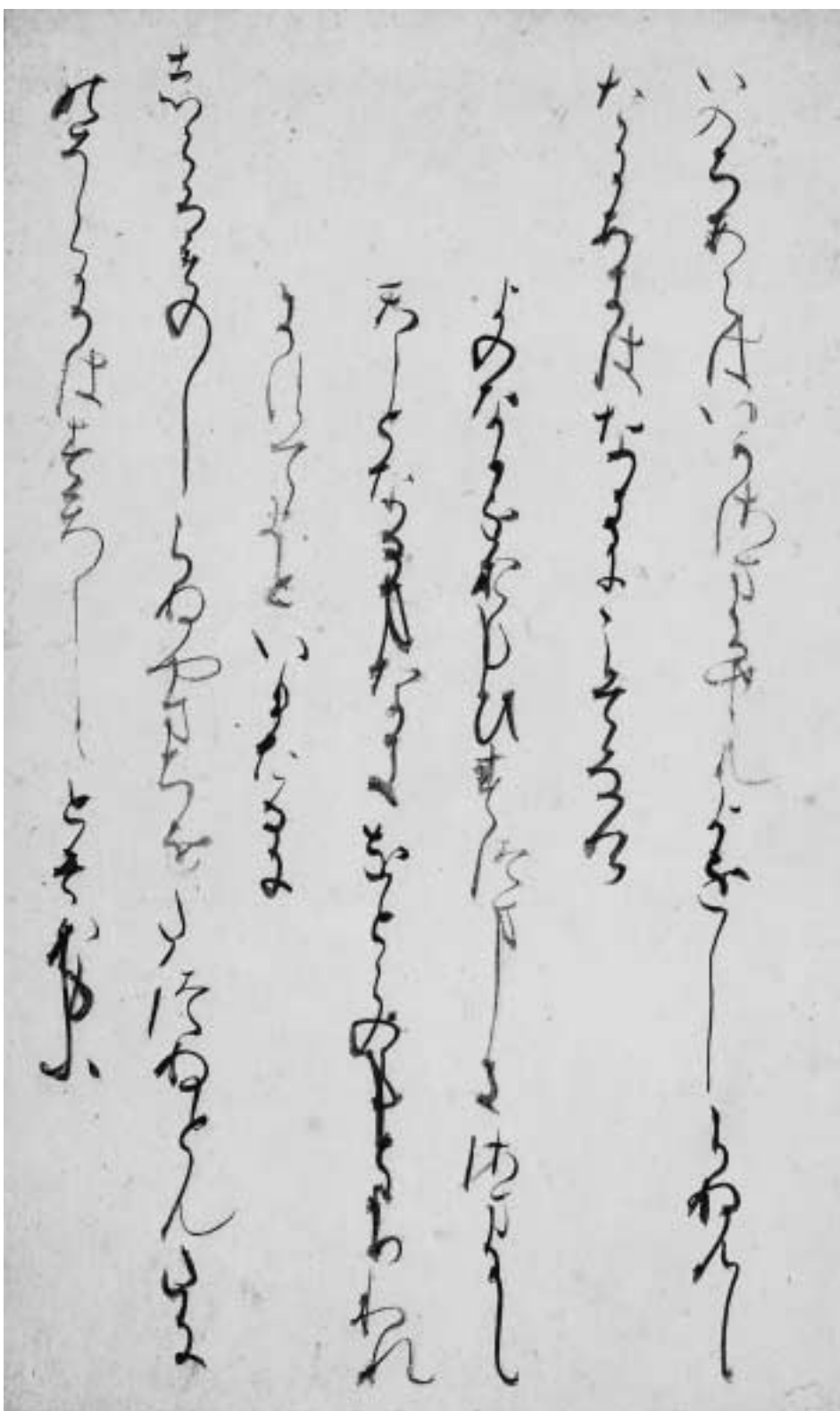
〈よみ〉  
 いのちあらはいかさまにせんよをしらぬむし  
 だにあきはなきにこそ  
 よのなかを、おもひすつまじきさまにし  
 て、ことなる事なきをこのもとより、われ

いすみしきぶやくしうぎれじゆかきざれ  
 ぬすてよといひたるに  
 しくものしらぬやまぢをたづぬともたに  
 そこにはすてじとぞおもふ

〔解説〕筆者を行成と伝えるが確証はなく、「針切」などと同じく十  
 一世紀末〜十二世紀初めのころとされ、書風から、三人の手によるも  
 の(桑田笹舟説)とされる。料紙の中に、雲龍などの型文様を空摺に  
 した特殊な紙が用いられている。雄渾な筆致で、逆筆に近い直筆が用  
 いられ、筆先を紙面にくいにみながら螺旋運動を繰り返す。(編集部)

※落款を必ず入れる。  
 署名、もしくは〇〇臨  
 (押印のみ可)

※左記の掲載  
 歌一首以上を書く  
 (全臨も可)  
 用紙・半紙普通判  
 (料紙可)





枝影不動

よみ(枝影動かず)

書体||自由

## 習い方解説 (五)

千葉耕風

枝影不動

(風もなく小枝すら動かず)

枝影不動―暑い日は小枝も動かないくらい風もない。草書でポリュームを出す事を考えて顔法を参考に書いています。

古典から集字して草稿を作るのですが筆勢や字型を同一にして、書くのは苦しみます。多読、多習して、少しでも自分の主張を出して仕上げて見てください。

漢字規定 秀級以下 【九月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

牧 泰濤 選書

習い方解説 (五)

牧 泰濤



天空任鳥飛 よみ(天空は鳥の飛ぶに任す)

書体Ⅱ楷書

天空任鳥飛  
(天空は鳥の飛ぶに任す)

①上達のポイント(5)

上下運動ができてこそ毛筆の使い手。(今月より猪毫筆使用)

毛筆と硬筆(毛以外の筆記具)のちがいは、筆圧が自由にでき、線の太細が一本の筆でできる点にある。毛筆は世界一の筆記具と思う。故に又その使用はむづかしい。意のままに使いこなすには修練が要る。平面と立体運動の組み合わせによる。太細の点画を表現できるよう学んでください。

②「天」3、4画の終筆伸びやかに。

「空」穴冠と工のつりあい。

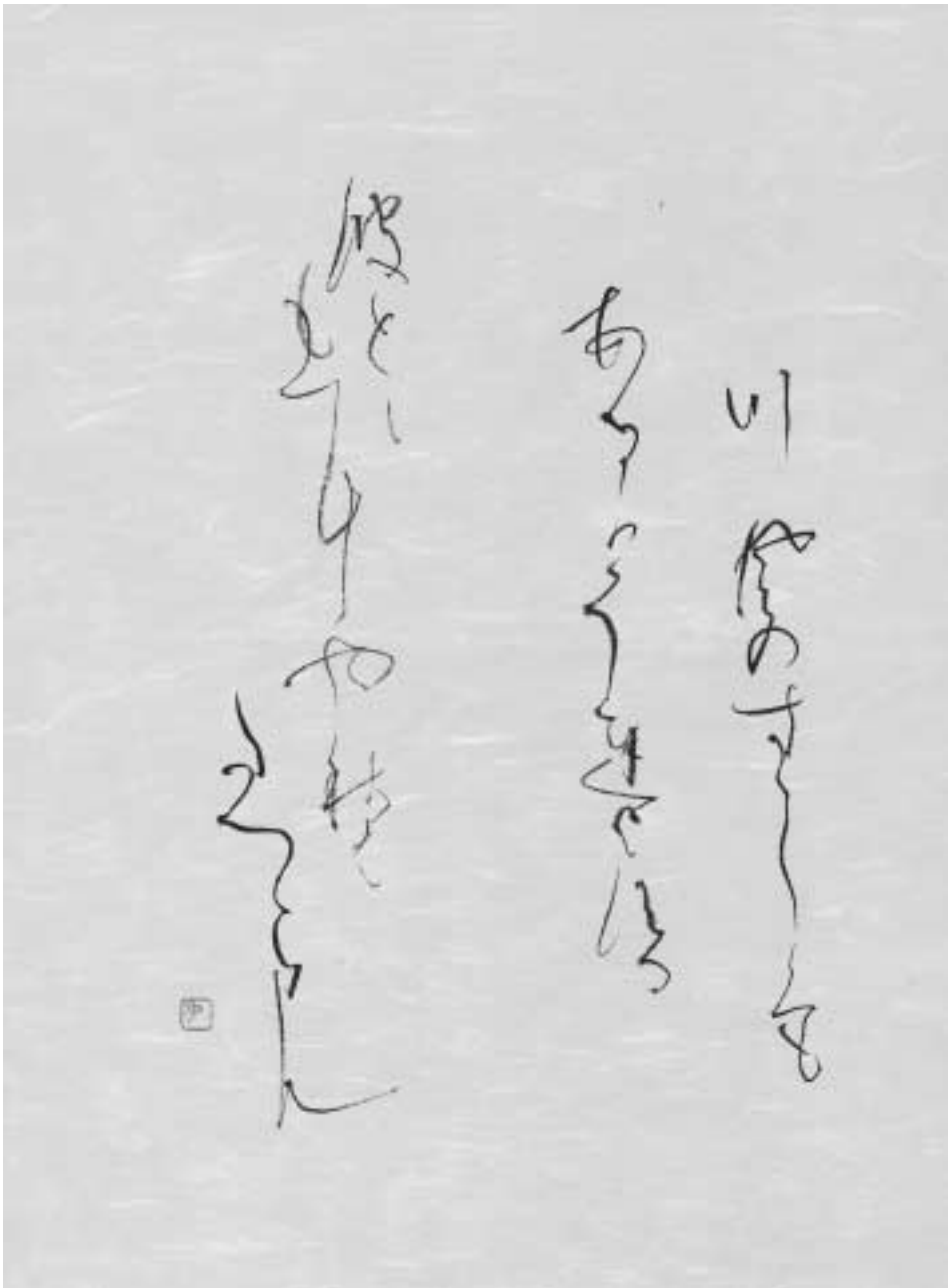
「任」隣の横画のちがいがい。

「鳥」2、3画の向勢、烈火の大小と方向。

「飛」縦画の等間。飛のちがいに注意を。



かな規定 初段以上 【九月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可） 大辻多希子選書



### 習い方解説 (五)

大辻 多希子

川風のすずしくもあるかうち寄  
する波とともにや秋はたつらむ  
(古今集)

立秋の日に、殿上人たちが賀茂河原で散策をした時のお供として行った時に詠んだ歌

書き出しから、漢字二文字が続きました。

かな作品に漢字を入れる時、かなとの調和を考慮します。

行頭に、二つの漢字、川、波、があります。直線的な、川、曲線的な、波です。二つの漢字は指向性を持たせながら書きました。

漢字の部分を変体仮名に換えて違った表現をすることも試みて下さい。

参考



よみ方

川風のすずしくもあるか(可)うち(運)よ(写)す(須)る  
波とと(と)もに(耳)や秋は(者)た(多)つ(川)らむ(无)

創作

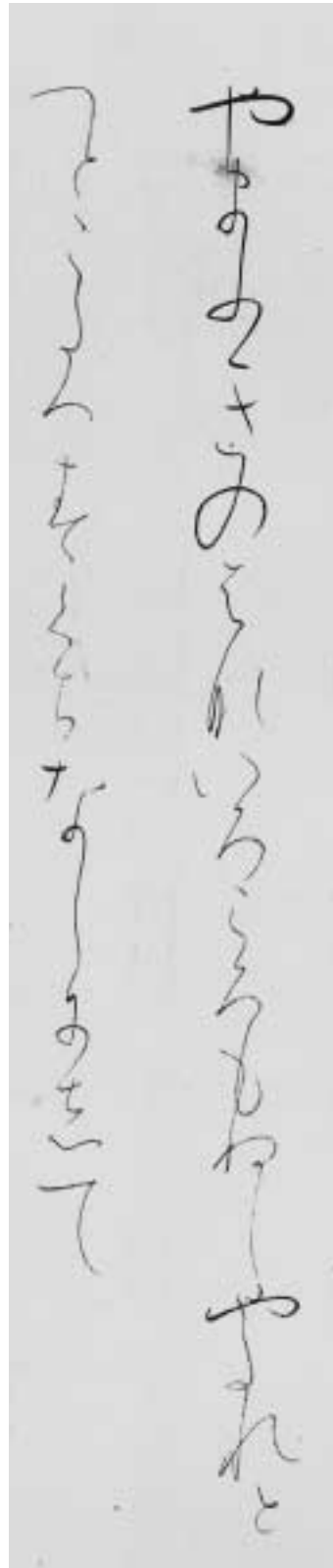
よみ方

か(可)は(者)かぜのすずしく(久)もあるか(可)うち(運)よ(春)るな(那)み(三)とと(登)もに(耳)やあきは(盤)た(多)つ(徒)らむ(无)

かな規定 秀級以下 【九月二十日締めきり】 用紙 半紙タテ1½ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方 やまぶきのは(者)な(那)いろごろもぬしやた(多)れと

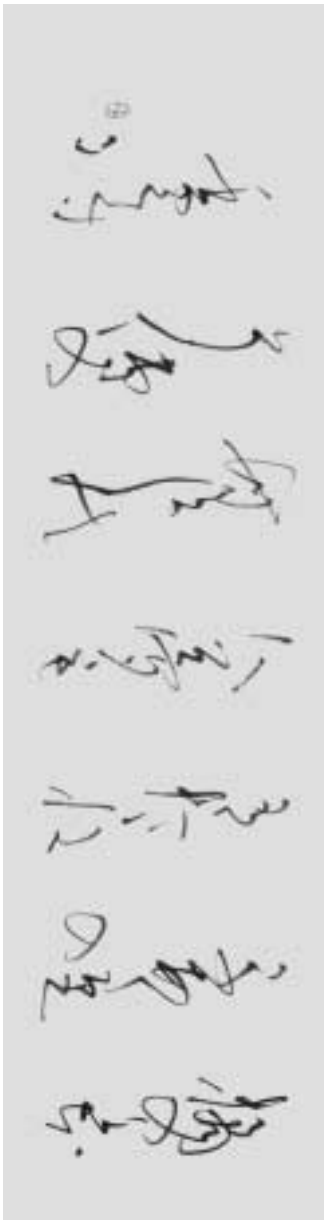
へどこた(多)へず(春)く(久)ちなしに(尔)し(志)て

### 習い方解説 (二)

下谷洋子

かな条幅規定 【九月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

下谷洋子選書



よみ方

橘たちばなのに(尔)ほ(本)ふあた(多)り(里)のう(有)た、ねは(八)夢も(毛)む(無)か(可)しの(能)そ(曾)で(傳)の香かぞする

創作

橘たちばなのにほふあたりのうたたねは夢もむかしのそでの香かぞする  
(新古今和歌集)

横形式では、石垣のようにいろんな形の文字を積む感じをイメージしましょう。行は、必ず前の行を受けながら文字の大小・疎密が決まりますから、構成を変えるときはその点に注意して下さい。無可し能のように、文字を少しずらした行を作ると紙面に立体感が生まれます。始め大きく出しましたが、これも決まりはありません。ただ、墨量は控えめに!

※よこ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【九月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

山内孝石 選書



書体||自由

樂事無如昆弟好 壯懷老覺歲時遷  
(樂事昆弟の好きに如くは無し 壯懷老いて覺ゆ歲時の遷るを)

漢字条幅規定 秀級以下 【九月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

生田翠龍 選書



書体||自由

牀前看月光 疑是地上霜  
(牀前月光を見る 疑ふらくは是れ地上の霜かと)

### 習い方解説 (五)

山内 孝石

樂事:

兄弟仲の好いのが楽しい事、中年過ぎて老境を感じ乍ら歳月が至つ。

昆弟||兄弟

書く速度を変えたり、リズムを変えて書いてみましょう。

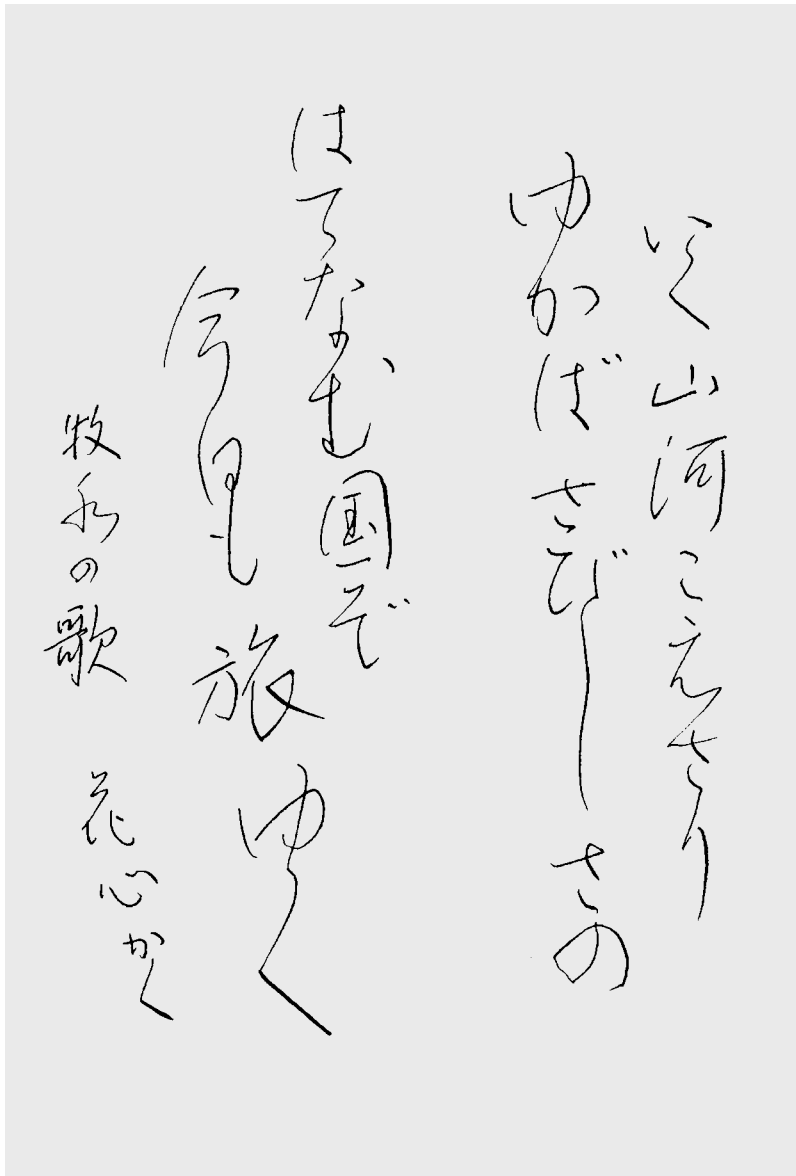
### 習い方解説 (五)

生田 翠龍

幼い頃、満月に照らされて一面真白になった裏庭に思わず飛び出した事がある。中学生になってこの詩に出合い、いたく感動したことが今でも脳裏に鮮明です。

李杜は張旭や懷素の時代の人。書くに興に乗らなきや、書くに値しないであろうと思います。

好きな音楽でもかけて、筆とおどりましょう。



用紙はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体は自由

## 習い方解説 (五)

今村菁華

今月は若山牧水の和歌を選んでみました。書き出しはしずかに、しだいに発展させ、二行目と三行目の間の空間を大きく、三、四行目は字数を少なくし大きめに終り、落款で全体を引きしめてみました。

ペン字は場所もとらず、わずかの時間でも気軽に勉強することが出来ます。また最近色々な細工や絵入りのハガキも多数売られています。また、マグネットで簡単に止められ、台紙も色々と交換出来るハガキ立てが売られています。それらを利用して自分の作品を身近で楽しんでみられたらいかがでしょう。

※落款を入れ忘れないようにしてください。(落款は自分の名前を入れてください。)

ホープ作品  
各部総評

NO. 565

かな部 師範 武藤 房枝

大きく動きながら、過剰でない表現に押さえ、見飽きぬ作品とした力量は見事で好ましい。

◎かな部総評 字粒の把握の迷いが上級者にも多く残念。変体仮名遊の誤字で、ランクを下げた作品が目立った。要確認。(明子評)



かな条幅部 準師 高橋はる江

文字の大きさ、余白のとり方が適宜で美しい。渴筆での筆圧の加減も熱れ、暢達な趣に品が備る。

◎かな条幅部総評 参考手本の字の大小を極端に捉えたものが若干目についたが、問題は余白、常に全体を見て判断のこと。(洋子評)

前衛書部 特選 小林 美恵

滲みによる密と余白の疎が調和している。構成のバランスと運筆のリズム感が魅力的。

◎前衛書部総評 個々の感性を生かした表現豊かな作品が多く見られ心に響いた。(蓮紅評)



漢字条幅部 師範 長島 傳雨

単体の漢字をポツンポツンと置きながら運筆明快で余白が輝いている。感性大切に育てたい。

現代詩文書部 特選 新谷 嵐泉

少々読みづらかったが、大胆にしてスケールも大きく底力を感じる。グイグイと攻めている。

◎現代詩文書部総評 全般的に手慣れて体裁をなしているが、気持ちの入ったものを望む。(石雲評)



◎漢字条幅部総評 現代芸術は個性的、独創性が好まれるが、書表現に必要な考え方や技術はしっかりと学んでおきたい。(春洋評)



ペン字部 師範 加藤 翠陽

細線暢達し、冴えある筆致、作品としても見応えあり。また落款も上手いさらに自在の作待望します。

◎ペン字部総評 誤字作もなく平安で穏やか、連綿のない童謡で書き易かったと思われず。正しいペンの持ち方に注意。(京華評)

わたしは直赤なりんごです  
お国は寒い北の国りんご畑の  
晴れた日に笑顔につめられ汽車  
ポツポツの市場に着きました  
りんごりんごりんごりんご  
かわいひとりごと 早陽書

漢字部 師範 加藤 紫翠

たっぷりと暢達した筆致で重厚な表現。運腕のリズムが大きくゆとりある作。落款も調和している。

◎漢字部総評 上級者草書表現多かったが運筆のリズム乏しいもの多し。字形のおかしなものも散見された。さらに努力を。(大雲評)





今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

現代詩文書

(声香)

米倉聲香

「山頭火の俳句」



米倉聲香書

182×60cm

前衛書

(四谷)

角田悠香

「花火」



角田悠香書

180×49cm

◆ゆったりとした感じが全体に表現されている。滲みの効果は作品が濁って来るに従って変化するので思わぬ効果が出て喜びを感じるのでは。  
 (倫子評)

◆重厚感ある基線と広がりを感じさせる独特のにじみが相乗して気宇の大きな作となった。厚手の用紙の特性を生かした点も評価したい。  
 (大雲評)

◆圧倒的な重量感、生命感溢れる墨象は、文句なしに見る者に迫ってくる。内なるものを率直に表現できる書を大切に伝えていきたい。  
 (春洋評)

◆にじみが題名の花火のように拡散し、様相を変えた墨の象が魂の如く宇宙に遊泳する。にじみの度合いが雰囲気を出している感じがするのは私だけか。  
 (洋子評)

◆山頭火の句を一行で大胆に展開する。行のうねりが自然なリズムを奏で紙面に動きを与えている。破筆の処理と落款の配置にもう一工夫を。  
 (大雲評)

◆読む書から見る書へ、視覚的な書の研究が現代の書を大きく変化させたといつてよい。大胆な読みにくい山頭火の句、白黒の攻めぎあい。  
 (春洋評)

◆墨の塊が蠢き、インパクト大。但、じっくりと見ると少々線質が類似し、リズムや字間の間も向勢で整いすぎたように思う。センスに期待。  
 (洋子評)

◆現代詩の中にはいろいろと決りがあると思うが、落款の位置が本文の流れの美しさと違った雰囲気を出している感じがするのは私だけか。  
 (倫子評)

## 総評

今回は73点(漢18、か7、現27、前18、篆3)の応募がありました。入賞作品は常連の方々の名が多く見られます。毎月異なる作風で出品される方も多く見られ、毎月楽しみます。毎日展公募サイズの作品が出品出来るようになり、従来の半折作品はとうしても小さく見えてしまっています。墨色の工夫、紙との相性は大事です。線の深味、立体感、躍動感が異なります。魅力に溢れた作品は、墨色の美しさが不可欠です。一層の工夫を期待します。毎日展60回記念事業で様々な展覧会が開催され、鑑賞力を養う良い機会が増えます。楽しみます。  
 (萬城)

〈特選候補者〉

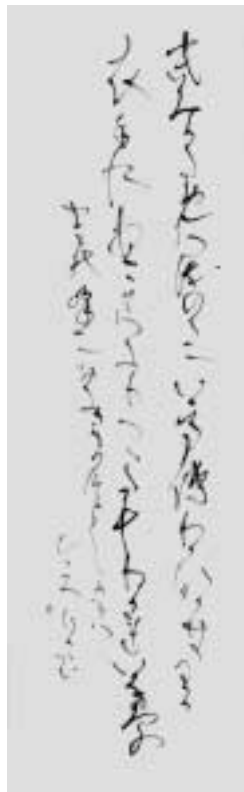
漢 墨宣 楠木 梅道  
 “ 大雲 佐藤 希雲  
 “ もく 西川 藤象  
 か 書泉 岩崎 竹溪  
 現 大雲 日高 優子  
 “ 大雲 長島 櫻雨  
 “ 一貫 鈴木 博真  
 “ 玄穹 土屋 光輝  
 “ 華祥 安藤 華祥  
 前 蓮紅 浅野 彩紅  
 “ 蓮紅 竹ノ内 寿紅  
 “ 蓮紅 大友 紅蓉  
 “ 四谷 鈴木 白鷺

かな (前橋)

# 碓井 弘

「百人一首」

◆強靱な線でよく動き連綿の面白さを展開しているが、リズムが単調で伸縮に乏しい。力量があるので全体をよく見て構成し、大きな空気を。(洋子評)



碓井 弘書  
176×53cm

◆古い歌の中に口ずさむような動きが現代に生きた感じを与えてくれる。筆先の切れのよいのが処々に見られるが多くなるとせわしいか。(倫子評)

◆響きの高い線で力強く、ぐいぐいと書き進め、楮紙が一層線を引きしめた。次には、リズムの変化に心すれば深みが増すと思われる。(春洋評)

◆和歌二首を三行構成を主として明るく爽やかにまとめる。潤渇のバランスは悪くないが、三行目のひきしめた表現はやや締まりすぎたか。(大雲評)

篆刻

# 「聴必順聞」

(千葉) 大隅晃弘

◆しっかりと運刀して歯切れよい線もあり、丁寧に画数の多い文字を処理している。意の届かぬ処の刀法の研究を。(春洋評)



〈縮小〉

大隅晃弘刻

◆四字の密な布字に充実感あり。大胆な右から下辺の縁の冴えに対し、聴の上部の縦画の処理、順の左辺の空間処理などもう一工夫を。(大雲評)

◆四字を巧みに組み合わせ余白の残し方が面白い。補刀した線と生の線との組み合わせに自然な所があるので、線の太さ細さにも気をつけて。(倫子評)

◆全体を密にまとめ、強く大胆な刀意でグイグイと空間を切り裂く。字画の違いで僅かに生じた余白が冴え、縁の変化で妙味を出す。(洋子評)

漢字

# 「高青邱詩」

(墨宣) 大川代香

大川代香書



135×35cm

◆軽妙なリズムで全体に明るく爽やかである。潤渇の構成も巧みで、遊糸連綿、繊細な感覚は現代に通じるものがある。さらにリズムの変化を。(春洋評)

◆細線の連綿が美しく流れ、潤渇の变化が紙面にリズムを与えている。筆端の切れ味にさらに冴えがほしいと感じるが、いかが？(大雲評)

◆かなに通じる流れも感じるが、細線であっても骨格のある気韻は美事です。字画の間のとり方が絶妙で、行間の白もすっきりと明るい。(洋子評)

◆淀みなく全体の流れを止める事なく纏めてるのは素晴らしい。三行目は力を加減したのだろうか字の中が統一されすぎて弱くなった感じ。(倫子評)

漢字研究部  
(大唐中興頌)

選評 村野大仙

今月のホープ作品



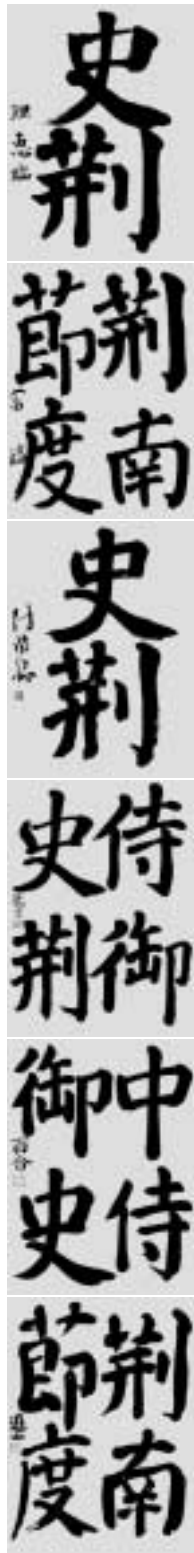
中村舜水

漢字研究部 特選 中村 舜水  
超濃墨を筆にたっぷり含ませて静かに落筆、憶せず、あせらず、堂々と押し切った運筆により、魅力ある線状がくっきりと残されている。骨法のしっかりした筆線は私の心に喜びと安堵感を与えてくれました。

◎漢字研究部総評

今回の課題は原則そのものが巨大な磨崖碑。本誌写真は縮小もの、文字の本物は縦横共三

倍強の大きさ、そのまま半紙に四字並べるとどこかしらはみ出してしまおう。二文字の作品が多かったのも賢明な策。豊かで雄大な気分を学んで欲しい。ただ大きく書けば雄大に見えると言おうものではない。骨格のしっかりした豊かな線と堂々として揺るがぬ造形が必要。柱になる縦画はふらつかない様に。そして確かな用筆（これが誠に不安）で筆力の充実を計るようにしたいものである。



光 響 壺 加 好  
代 子 山 神 玲 子  
美 子

あ 眞 雅 蒼 亮  
つ 理 芳 香 子  
秀 子

富 佳 龍 百 遊  
理 美 泉 玄 子  
山

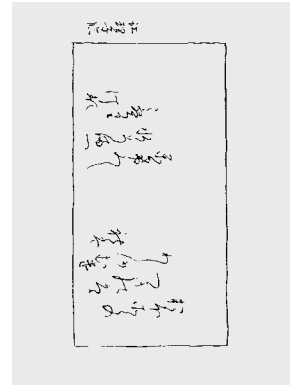
良 恵 雅 典 辰 和  
子 邦 子 夫 子  
歌 子

かな研究部

(継色紙)

選評 山藤美知子

今月のホープ作品



青木江理子

幸宏彩  
子枝雨

理麻嵐  
恵子子泉

紅春藤  
霞蓮象

益初絹  
江江子

かな研究部 特選 青木江理子  
継色紙は線が男性的、運筆に継続的な特異なリズムがありその特徴をうまくとらえました。線質墨色共に美しく、よく書きこまれた秀作です。  
◎かな研究部総評 順序として紙面に色紙の線をひいてから、その中に書いてください。空間の処理が判ります。はじめにじっくり観察してから習ってください。

かな研究部成績表

Table with 4 columns of names and a '特選' (Special Selection) column. Names include 千石正A洞椿も, 猪犬伊藤安新井, 理道英寿楊代雪, etc.

Table with 4 columns of names and a '佳作' (Good Work) column. Names include 五秀水入, 秋青山木, 久か枝, etc.

かな研究部 特選 青木江理子  
佳作  
作(60書)

# 院報

## 第62回書道芸術院展 当番審査員・事務委員決定

去る5月18日(日)理事評議員会が開催され、第62回展特別賞選考委員が決定。6月14日(土)運営委員会において、同展の当番審査員・事務委員が左記のとおり決定した。

(◎主任、○副主任)

### 一、特別賞選考委員

・峰雲賞選考

- 恩地春洋 辻元大雲 大野祥雲
- 浜谷芳仙 尾形鼎山 香川倫子
- 黒川江傳子 宮澤梅徑
- ・大賞・準大賞・白雪紅梅賞選考
- 恩地春洋 辻元大雲 飯高和子
- 小伏小扇 嵯峨大拙 石井明子
- 加藤眺溪 後藤大峰 小浜大明
- 最首翠風 坂本素雪 下谷洋子
- 浜田堂光 尾崎栄藏 田守光昭

### 二、無鑑査当番審査員

・漢字部

- ◎竹本龍汀○小川弘舟 横谷尚恵
- 下島重仙 井上始源 吉永春園
- 石毛龍泉 岡村恵窓 唐岩碧水
- 堀内郁子 萩原香扇 北畑芳草
- ・かな部
- ◎和氣しげ代○勝山初美
- 松村くに子
- ・現代詩文書部

・現代詩文書部

### 三、無鑑査審査事務委員

・漢字部

- ◎小林琴水○川村美泉 岩垣若翠
- 佐藤好美 新行内芳蘭 吹田紅扇
- 林 春雪 平野笛舟 丸山雪香
- 三浦鄭街 守田小映 矢野弥生
- ・かな部
- ◎前田まさ美 岩崎竹溪 安田啓子
- ・現代詩文書部
- ◎阿部珠翠○大森青風 北嶋菁湖
- 桐谷優華 鈴木博實 高橋真舟
- 中島翠卓 中島奮洲 西山珠香
- 横田汀華
- ・篆刻・刻字部
- ◎津村玲石○安達春汀
- ◎前衛書部
- ◎名取雅子○吉田千萬喜 岩崎香葉
- 岡田琇韻 後藤法明 原田翠瑤
- 平島正義

### 四、一般公募当番審査員

・漢字部

- ◎千葉耕風○前田龍雲 飯田春香
- 麻生峰扇 中山無硯 高橋朋艸
- 川島舟錦 有野瑋扇 小倉梅扇

- 加瀬澄春 牧 泰濤 生田翠龍
- ・かな部
- ◎大辻多希子○奥田瑞舟 中川春香
- ・現代詩文書部
- ◎千葉翠玲○中野黎峰 今村菁華
- 今野深泉 鈴木漢舟 吉川翠佳
- 高田幽玄 杉山枝苑 福嶋和子
- 山崎掃雪
- ・篆刻・刻字部
- ◎小山鳳来○佐藤香山
- ◎前衛書部
- ◎大井美津江○佐々木蓮峰
- 北村白琉 柳町祥香 宮崎玉喜
- 荒井終雲 今野白峰

### 五、一般公募審査事務

・漢字部

- ◎崎井恵風○半田藤扇 青柳明華
- 稲垣小燕 大内熒軒 奥原翠嵐
- 小野溪風 児玉韜光 田中朴堂
- 浜口瑞香 三沢明扇 渡辺柱雲
- ・かな部
- ◎見越雪枝○福田令子 佐藤希雲
- ・現代詩文書部
- ◎金木和子○菊池富美子 国吉真雲
- 小林瑞香 鈴木祥峰 寺尾京華
- 布施瑞弘 保谷美芳 宮原香扇
- 門間香舟
- ・篆刻・刻字部
- ◎金橋奎舟○赤羽蘭徑
- ◎前衛書部
- ◎倉林紅瑤○大内翠峰 小山内景峰
- 木村貞衣 知野洛水 中瀬美智子
- 福島李舟

## 予 告

### ◇9月号の課題

漢字規定(初段以上)

青山紅樹

漢字規定(秀級以下)

海潤從魚躍

かな規定(初段以上) 半紙(料紙可)

身にしむやほろりとさめし庭の風

(室生犀星)

かな規定(秀級以下) 料紙可 壽切禁

「ひとふるすさとをいとひてこしかど

もならのみやこもうきなうりけり」

のうたを全臨または、部分(二字以上

の連綿)を臨書する。

かな条幅規定(料紙可) 左形式に臨書

秋の野やものの底なる草の花

(加賀千代)

漢字条幅規定(初段以上)

静室無塵少客過

新篁陰曳小坡陀

漢字条幅規定(秀級以下)

遠上寒山石徑斜

白雲生處有人家

ペン字規定

寒月や

我一人ゆく

はしの音

炭太祇の句



〔特別昇級試験臨書課題〕

高貞碑（楷書）

漢字部

第一種

半紙に写真掲載の中から5字を臨書・それ以外は不可



王・許。龍馬流車。陸離／於陰鄧。而不以下

蘇孝慈墓誌銘（楷書）

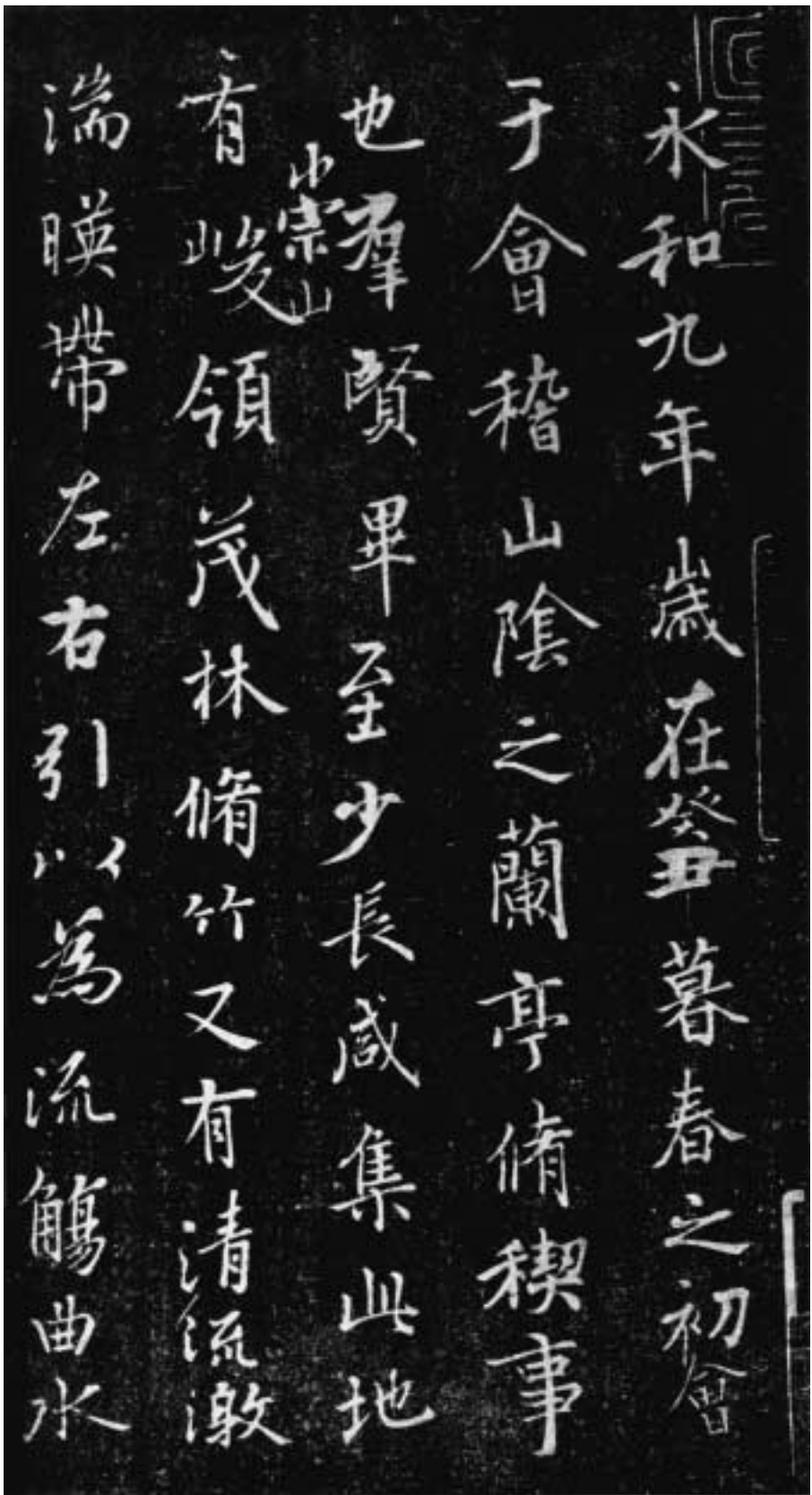
漢字部

第三種

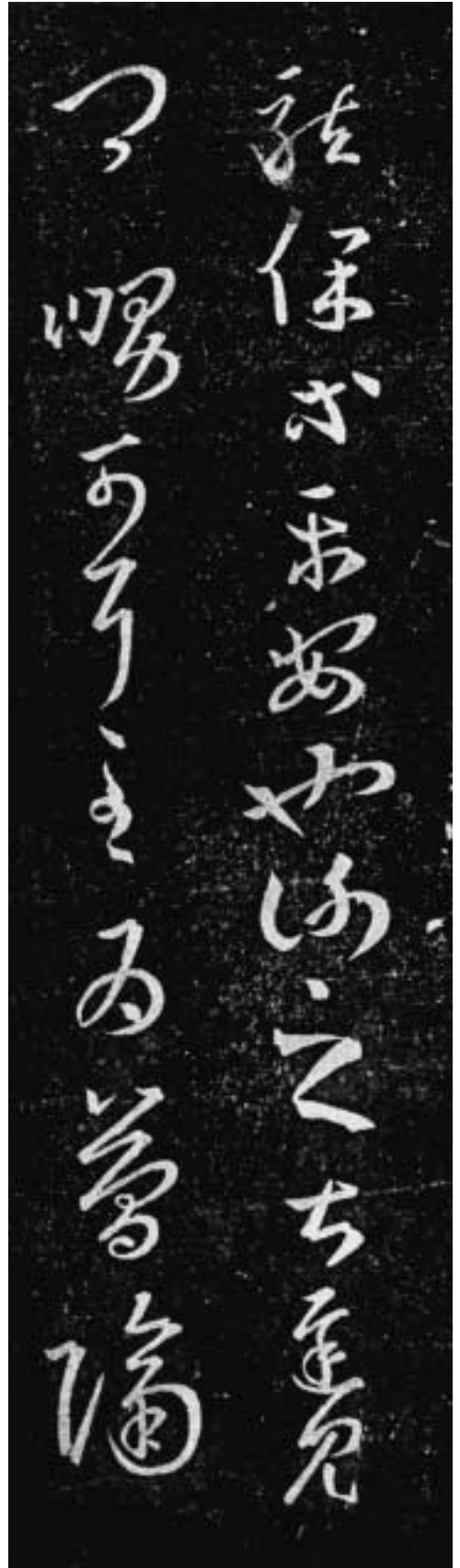
半紙に写真掲載の中から24字〜30字を臨書・それ以外は不可



官府都上士。治中義都上士。九府分職。六官聯事。公遍歷。兼治庶績咸舉。四年。授持節

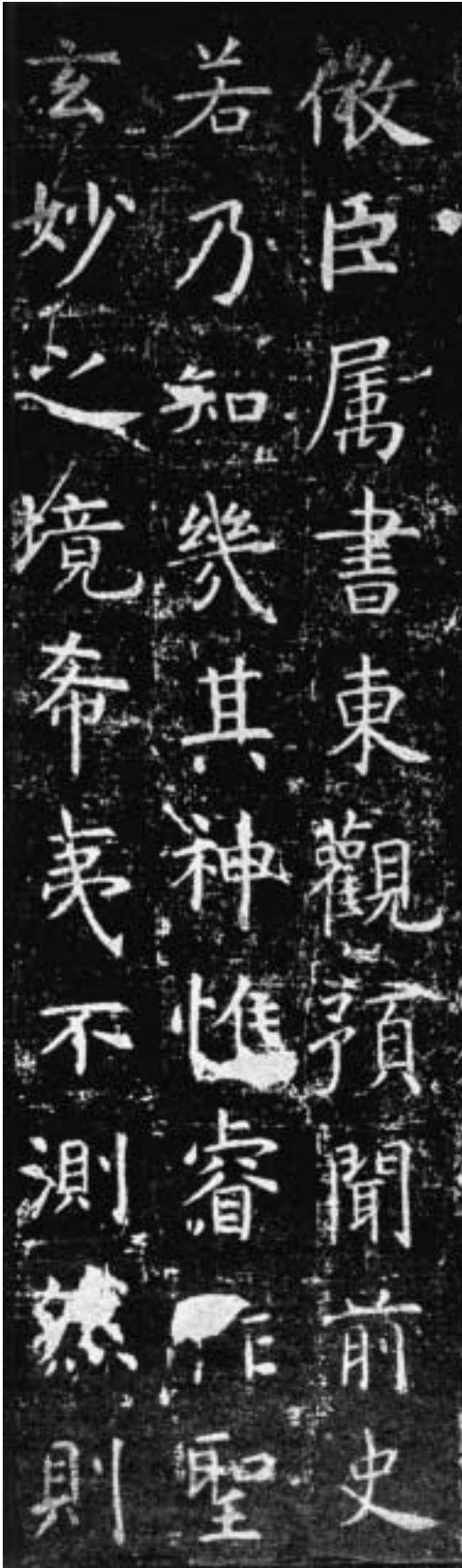


永和九年。歲在癸丑。暮春之初。會于會稽山陰之蘭亭。脩禊事也。群賢畢至。少長咸集。此地有崇山峻嶺。茂林脩竹。又有清流激湍。映帶左右。引以為流觴曲水。



龍保等平安也。謝之。甚遲見卿。舅可耳。至爲簡隔。

孔子廟堂碑 (楷書)



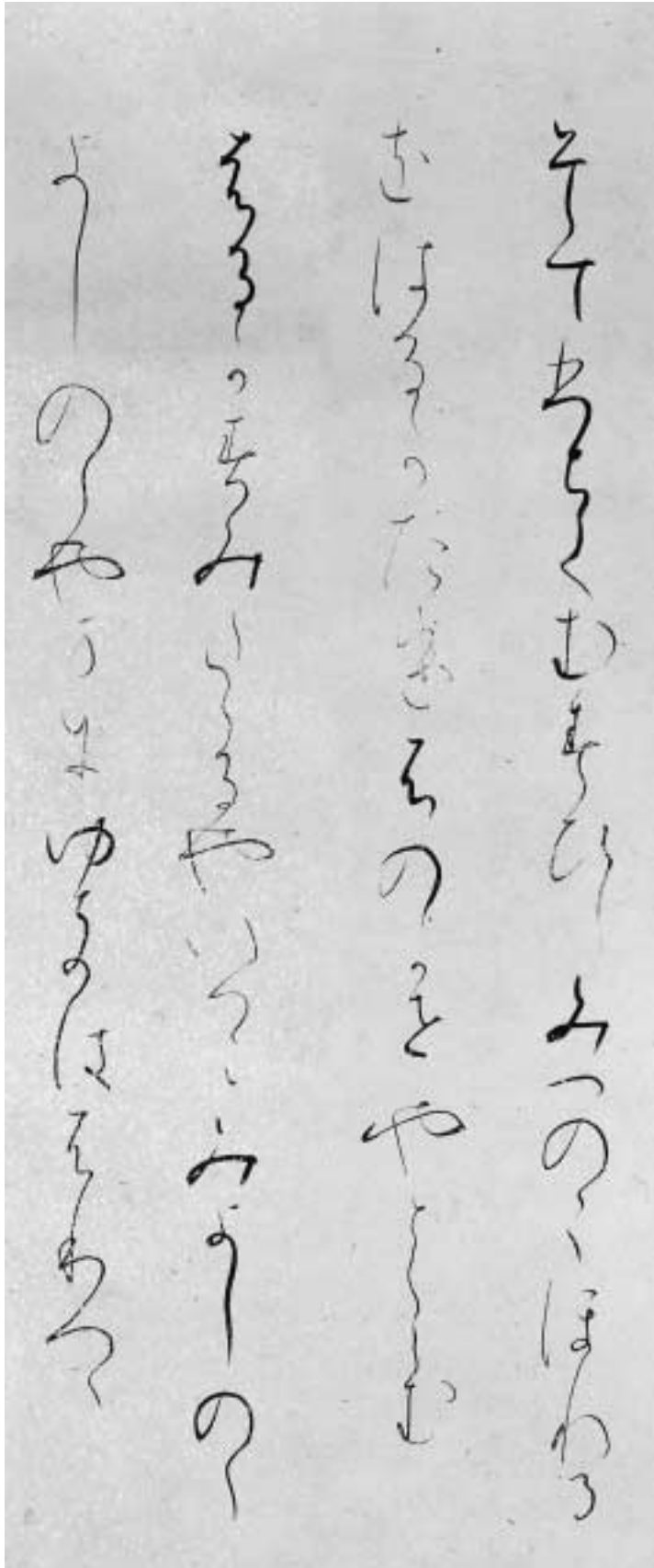
微臣屬書東觀。預聞前史。若乃知幾其神。惟睿作聖。玄妙之境。希夷不測。然則

高野切第一種

かな部

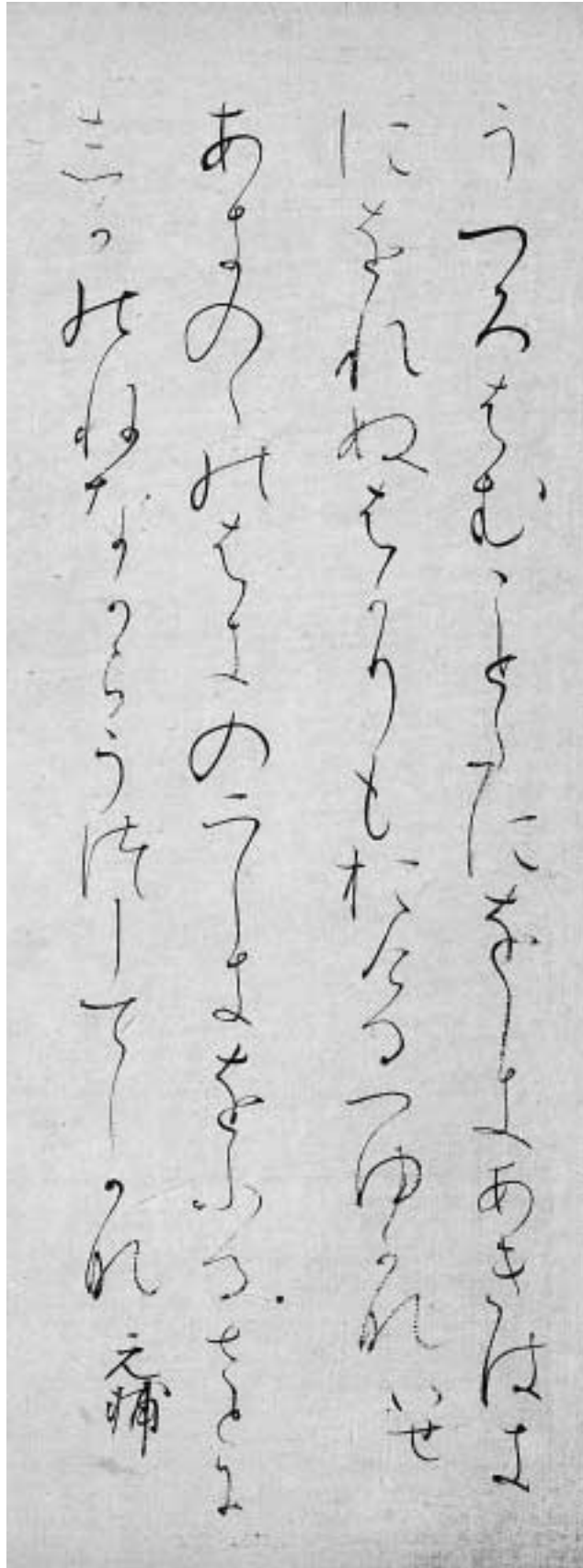
第一種

半紙に写真掲載の和歌・二首を書く・それ以外は不可 (料紙可)



そで<sup>悲</sup>ひちて<sup>三</sup>むす<sup>春</sup>びしみづのこほれる  
はる<sup>者</sup>が<sup>可</sup>す<sup>春</sup>みた<sup>多</sup>るやいづこみよしの

をはる<sup>可</sup>か<sup>道</sup>た<sup>不</sup>け<sup>可</sup>ふ<sup>世</sup>のか<sup>可</sup>ぜ<sup>久</sup>やとくらむ  
よしの<sup>万</sup>や<sup>尔</sup>まに<sup>支</sup>ゆ<sup>不</sup>きは<sup>利</sup>ふりつ



うつろはむ<sup>者</sup>ことだに<sup>多</sup>をし<sup>支</sup>きあ<sup>支</sup>きは<sup>支</sup>ぎ<sup>支</sup>  
あ<sup>支</sup>きの<sup>支</sup>ゝの<sup>能</sup>は<sup>者</sup>ぎ<sup>支</sup>の<sup>二</sup>にし<sup>支</sup>きを<sup>支</sup>ふる<sup>支</sup>さと<sup>支</sup>に<sup>尔</sup>

に<sup>志</sup>を<sup>可</sup>れ<sup>能</sup>ぬ<sup>者</sup>ば<sup>可</sup>かり<sup>可</sup>も<sup>於</sup>お<sup>介</sup>ける<sup>可</sup>つ<sup>可</sup>ゆ<sup>可</sup>か<sup>那</sup>ない<sup>那</sup>せ  
し<sup>志</sup>か<sup>可</sup>の<sup>能</sup>ね<sup>者</sup>な<sup>可</sup>が<sup>可</sup>ら<sup>可</sup>う<sup>徒</sup>つ<sup>可</sup>して<sup>可</sup>し<sup>可</sup>が<sup>那</sup>な<sup>元</sup>元<sup>輔</sup>輔

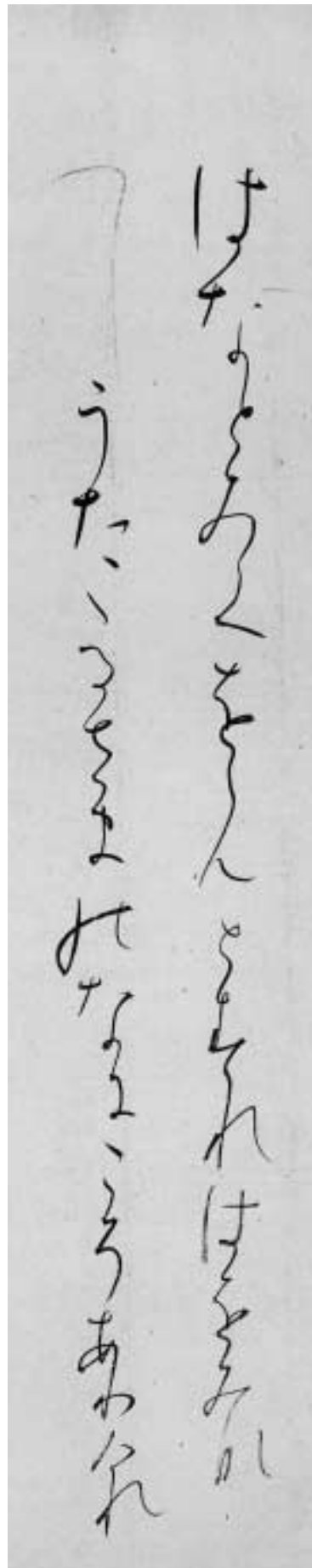


高野切第三種

かな条幅部

第三種

半切に写真掲載の和歌を書く・それ以外は不可(料紙可)



はなとみてをらんとすればをみな  
へしうたゝ(あ)るさまのなにこそありけれ

表紙写真 「和泉式部統集切上巻切」

お知らせ

8月13日(水)

17日(日)

事務所は、夏季休業させていただきます。  
よろしくお願いたします。

（助書道芸術院）

出品券 9月20日締切

※9月号の課題予告は  
45ページに記載。

別表第2（第6条） 会 費

資 格 別	本年度年会費	内 訳
		通常会費+書道芸術誌代(1年分)
常 任 総 務	44,000円	40,000円+4,000円
総 務	39,000円	35,000円+4,000円
審 査 会 員	34,000円	30,000円+4,000円
審査会員候補	24,000円	20,000円+4,000円
無 鑑 査	10,000円	通常会費 10,000円

創 立 60 周 年 記 念 事 業 収 支 計 算

自 平成18年4月1日 至 平成20年3月31日

	決 算 額		決 算 額
会 費 収 入	31,180,000	祝 賀 会 費	14,051,906
出 品 手 数 料	5,000,000	功 勞 者 表 彰	1,119,523
記 念 事 業 収 入	9,270,000	慰 霊 祭	2,144,380
記 念 事 業 収 入	990,000	役 員 作 品 巡 回 展	6,628,840
記 念 事 業 収 入	342,000	役 員 作 品 海 外 展	15,309,477
記 念 事 業 積 立 金 取 崩	20,000,000	記 念 作 品 集	18,760,089
雑 収 入	18,000	運 営 委 員 手 当	2,366,220
収 入 合 計	66,800,000	支 出 合 計	60,380,435
		収 支 差 額	6,419,565

訂 正

567号  
(7月号)

院報一部誤りがありました。正しくは左記の表。

568. 9月20日締切

漢 字

568. 9月20日締切

か な

568. 9月20日締切

漢 字 条 幅

568. 9月20日締切

か な 条 幅

568. 9月20日締切

ペ ン 字

568. 9月20日締切

現 代 詩

568. 9月20日締切

前 衛

研 究 部

568. 9月20日締切

漢 字 研 究

568. 9月20日締切

か な 研 究

の り し ろ

(568)特別研究作品

出品該当部門に赤○印

漢 か 現 篆 前

支 局 ・ 支 部 名  
題 名 ・ 釈 文

氏 名

氏 名

第27回皓映会書展

会期=平成20年9月5日(金)

~9月10日(水)

会場=大阪府立労働センター

エル・おおさか(9F)

連絡先 大阪府高槻市辻子2-11-6

TEL (072-672-7557)

大井美津江書道展

会期=平成20年8月29日(金)

~8月31日(日)

会場=前橋市民文化会館

大展示ホール

主催=秀水會

事務局・前橋市総社町植野760-5

大井美津江

2008年  
第23回書泉会展

—源氏物語和歌集を書く—

会期=平成20年9月11日(木)

~9月16日(火)

AM10:00~PM6:00

(最終日はPM4:00終了)

会場=銀座松坂屋別館5階

カトレヤサロン

主宰 下谷 洋子

第58回玄遠社書展

会期=平成20年9月10日(水)

~9月15日(月・祝)

会場=大阪市立美術館

主催=玄遠社

後援=財書道芸術院

全日本学校書道連盟

毎日新聞社

# 特別昇級試験

一、しめきり日 10月20日(月)

秋季は、作品募集を次のようにいたします。

- 漢字 一種、二種、三種
- かな 一種、二種
- 漢字条幅 一種、二種
- かな条幅 一種、二種、三種
- ペン字 一種、二種、三種
- かな、条幅の三種は、春季募集となります。

## 二、応募資格

- 一人で幾つの部にも応募できる。
- 第一種 現在級が優級〜10級
- 第二種 現在級が初段〜3級
- 第三種 現在級が準師範〜秀級
- (優級以下の方は受験できない)
- 新規出品者は、一種の10級で応募する。

## 三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧字体どちらでも可)

※漢字・かな・漢字条幅・かな条幅の臨書作品は、8月号(今月号568号)写真掲載の中から〔指定文字数〕を臨書。

## 漢字部

- 第一種(一枚) 半紙11たて長に使用
- 楷 臨書 高貞碑(高貞碑より)

## 5文字を臨書

- 第二種(楷・行 計二枚) 楷 煎茶、竹送風
- 行 臨書 蘭亭叙(蘭亭叙より)12文字を臨書

茶を煎ずれば折から竹はさらさらと風をこなたに送る

## 第三種(楷・行・草 計三枚)

- 楷 臨書 蘇孝慈妻誌銘(楷書)
- 行 創作 細字24字〜30字を臨書
- 草 臨書 白雁寒沙、月黄雲老樹、秋(薩天錫)

白し羽毛の雁は秋の砂原の月に宿らしめ黄いろい雲は霧に染め黄はめる秋の木である

## かな部

- 第一種(一枚) 半紙11たて長に使用
- 第二種(臨・創 計二枚) 和歌二首
- 第三種(臨・創 計三枚) 和歌二首

## 漢字条幅部

- 第一種(一枚) 小画仙紙半切11たて長に使用
- 創作 楷 または行 端居、樂、清、靜
- 第二種(楷・行 計二枚) 孔子廟堂碑

## ペン字部

- 第一種(一枚) 小画仙紙半切11たて長に使用
- 創作 蛾眉山月半輪、秋影入平羌、江水流
- 第二種(楷・行 計二枚) 孔子廟堂碑
- 第三種(楷・行・草 計三枚)

- 創作 行 雲布長天、龍勢逸
- 風高、秋月雁行齊
- 雲は遠方の空までしきつめて竜勢はすくれている。秋の風は空高く吹き月明らかなに雁陣は整列している。

## かな条幅部

- 第一種(一枚) 小画仙紙半切11たて長に使用
- 創作 はつ秋や海も青田の一みどり
- 第二種(創 計二枚) 名月やそばの花にて明けにけり
- 創作 晴れ曇る影をみやこにさき
- 第三種(臨・創 計三枚) はなとみてをらんとすればをみなへしうたゝるさまのなにごそありけれ

だてて時雨とつくる山の端の月

- 創作 蛾眉山月半輪、秋影入平羌、江水流
- 夜發清溪向三峡、思君不見下渝州
- 蛾眉山月歌 李白

課題の文字、新・旧字体どちらをも

## 四、名前のかき方

- ◎どの部も氏名または名、号を書く。
- ◎臨書は〇〇臨と書く。
- 印だけでは失格、特になか・ペン字は注意のこと。

## 五、受験料

- 第一種 一、〇〇〇円
- 第二種 二、〇〇〇円
- 第三種 三、〇〇〇円

◇納入は昇級試験用振替口座、または現金書留でお願いします。

## 六、審査結果と昇級

- 成績に応じて、次の通り昇級させる。
- 第一種は、最高秀級まで
- 第二種は、最高二段まで
- 第三種は、最高師範まで

## 七、応募手続

- 出品票はバーコード形式で作品の右下に、一枚毎につける。
- 二種は三枚つづける
- 現段級とは570の段級
- 作品二枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりですとめる。
- 支部の方は名簿形式にします。
- 受付番号をいれ、お送りします。
- 個人で受験希望の方は、①受験の申し込みをする
- 申し込み先

〒101-0081 千代田区東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階(助書道芸術院書道芸術編集部特別昇級試験係)  
80円切手貼付、住所、氏名明記の返信用封筒を同封のこと。

(受験番号を記入した個人専用の応募書類を送付します。)

②送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

③備考

- ・受験申し込み締め切りは9月30日まで。
- ・応募書類は9月30日以後に整理発送します。